

昭和61年度 和歌山県名匠

【ひ わ だ 檜皮ぶ き 葺し 師】

ほり 堀 しょう 庄 じ 次 ろう 郎

【現住所】橋本市
【生 年】大正元年

業績及び経歴

大正14年小学校卒業後すぐ、土井定太郎氏（昭和52年度県名匠）に弟子入りして以来、今日まで60年余りにわたって檜皮葺師として屋根葺替えを行ってきた。

氏が手がけた社寺には、奈良県の談山神社権殿（重文）・十三重塔（重文）、春日大社本殿（国宝）・若宮神社（重文）、京都府の東本願寺勅使門をはじめ本県では三船神社三殿（重文、桃山町（現：紀の川市））、丹生郡比売神社三殿（重文、かつらぎ町）、東照宮（重文、和歌山市）などがあり、数多くの建造物の保存修理に携わってきた。

なお檜皮葺とともに柿葺や土居葺にも取り組み、現在、国の重要文化財指定建造物である那智山青岸渡寺本堂の柿葺の修復を行っている。

また経験と錬磨に裏付けられた技術と深い知識を生かし、後進の指導育成にも努められるなど、その功績は極めて大きい。
（重文…国指定重要文化財）